

令和5年度高等学校教科書 QR コンテンツの訂正に関するお知らせ

現在ご使用いただいております弊社発行の高等学校教科書「情報Ⅰ 図解と実習-図解編(情Ⅰ 711)」教科書 QR コンテンツにつきまして、以下、訂正がございます。先生方、生徒、保護者の方々に大変ご迷惑をおかけいたします。深くお詫び申し上げます。

誠に恐縮ではございますが、当該箇所につきましてご指導の際にご留意いただきますようお願い申し上げます。

高等学校「情報Ⅰ 図解と実習-図解編(情Ⅰ 711)」教科書 QR コンテンツ

頁・箇所	原文(誤)	訂正文(正)	理由
50頁・上部 2次元コード	<p>(■標本化定理、4秒～18秒)</p>  <p>(上図拡大) (略) 最大周波数の <u>2倍以上の周波数</u> で標本化すれば、もとの音の形を再現できる。</p> <p>(略) 録音したい音の周波数の <u>2倍以上の周波数</u> でサンプリングする必要があります。</p>	<p>(■標本化定理、4秒～18秒)</p>  <p>(上図拡大) (略) 最大周波数の <u>2倍を超える周波数</u> で標本化すれば、もとの音の形を再現できる。</p> <p>(略) 録音したい音の周波数の <u>2倍を超える周波数</u> でサンプリングする必要があります。</p>	よりわかりやすい表現にするため
50頁・上部 2次元コード	<p>(■標本化定理、33秒～41秒)</p>  <p>(上図拡大) では、<u>20Hz</u> でサンプリングするとどうでしょう。</p>	<p>(■標本化定理、33秒～41秒)</p>  <p>(上図拡大) では、<u>40Hz</u> でサンプリングするとどうでしょう。</p>	よりわかりやすい表現にするため

<p>50 頁・ 上部 2次元 コード</p>	<p>(■ 標本化定理、41 秒～44 秒)</p>  <p>もとの波の形に近い波形になりました。</p>	<p>(■ 標本化定理、41 秒～44 秒)</p>  <p>もとの波の形に近い波形になりました。</p>	<p>よりわかりや すい表現にす るため</p>
<p>50 頁・ 上部 2次元 コード</p>	<p>(■ 標本化定理、52 秒～58 秒)</p>  <p>したがって、人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz以上</u>でサンプリングすればよいということになります。</p> <p>(上図拡大)</p> <p>(略) 人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz 以上</u>でサンプリングすればよいということになります。</p>	<p>(■ 標本化定理、52 秒～58 秒)</p>  <p>したがって、人間が聞くために利用する音は、<u>40kHzを超える周波数</u>でサンプリングすればよいということになります。</p> <p>(上図拡大)</p> <p>(略) 人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz を超える周波数</u>でサンプリングすればよいということになります。</p>	<p>よりわかりや すい表現にす るため</p>
<p>50 頁・ 上部 2次元 コード</p>	<p>(■ 標本化定理、58 秒～1 分 14 秒)</p>  <p>したがって、人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz以上</u>でサンプリングすればよいということになります。</p> <p>(上図拡大)</p> <p>(略) もとの音の形を再現するには最大周波数の <u>2倍以上の周波数</u>が必要。</p> <p><u>40kHz 以上</u>必要</p> <p>(略) 人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz 以上</u>でサンプリングすればよいということになります。</p>	<p>(■ 標本化定理、58 秒～1 分 14 秒)</p>  <p>したがって、人間が聞くために利用する音は、<u>40kHzを超える周波数</u>でサンプリングすればよいということになります。</p> <p>(上図拡大)</p> <p>(略) もとの音の形を再現するには最大周波数の <u>2倍を超える周波数</u>が必要。</p> <p><u>40kHz を超える周波数</u>が必要</p> <p>(略) 人間が聞くために利用する音は、<u>40kHz を超える周波数</u>でサンプリングすればよいということになります。</p>	<p>よりわかりや すい表現にす るため</p>